

2019年3月にNISAでは引き続きグローバル株ファンドが人気! また中国債のグローバル債インデックス組み入れを好感してアジア債ファンドも人気!!

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治  
窪田 真美

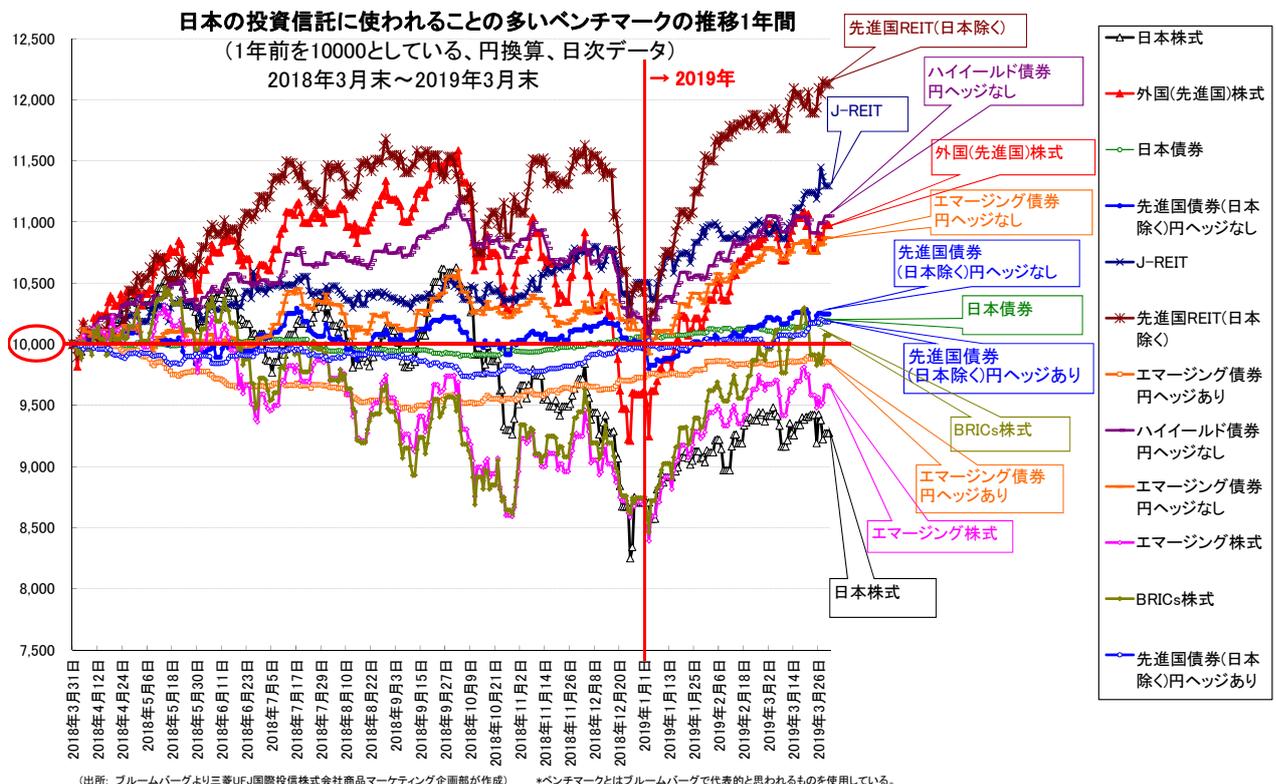
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## 最も好パフォーマンスは2019年3月はJ-REIT、1年・5年は先進国REIT!

投資マネーがリスク資産を離れ安全資産に逃避する動きが強まっている。2019年3月31日付日本経済新聞朝刊には「世界の投資マネーがリスク回避に傾いてきた。世界景気の悪化懸念が強まっているうえ、英国による欧州連合(EU)離脱などを巡って政治的な不確実性も嫌気されている。米欧の中央銀行による「ハト派転換」が下支え要因となつてはいるものの、投資マネーは株式や商品などのリスク資産を離れ、先進国国債などの安全資産に逃避する動きが強まっている。…(略)…。調査会社 EPFR によると 27 日までに先進国株ファンドからは 2 週連続、新興国株ファンドからは 3 週連続で資金が流出した。」(URL は後述[参考ホームページ]①参照)と報じられている。

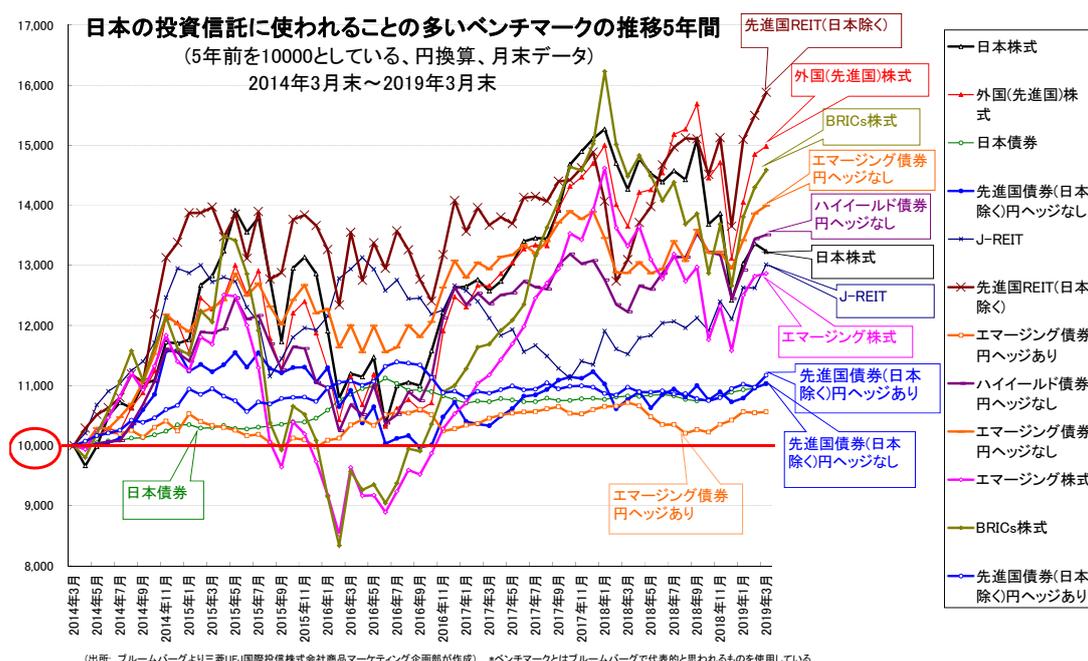
下記は日本の投信に使われる事の多いベンチマークの2019年3月末までの1年間のパフォーマンス推移である。好パフォーマンス上位にはREITや債券が並ぶ中、先進国株式は4番目のパフォーマンスとなっている。先進国株式は最新2019年3月1カ月間では6番目であるが、前月2019年2月1カ月間ではこのベンチマークの中では最高のパフォーマンスで、3年、5年(次頁グラフ)では2番目に好いパフォーマンスである。

ちなみに、日本株は最新2019年3月1カ月間、半年間、1年間でこのベンチマーク中で最低のパフォーマンスとなっている。



1年間のパフォーマンスは高い順に、先進国REIT(日本除く)、J-REIT、ハイイールド債券円ヘッジなし、外国(先進国)株式、エマージング債券円ヘッジなし、先進国債券(日本除く)円ヘッジなし、などとなっている(\*1年前を10000としている、円換算、日次データ)。1年間のパフォーマンスで最も高かった先進国REIT(日本除く)は、5年や2018年12月末からの3カ月でも最も高く2019年3月1ヶ月間ではJ-REITに次いで2番目に高かった。

下記は5年のパフォーマンスである。5年間のパフォーマンスは高い順に、先進国REIT(日本除く)、外国(先進国)株式、BRICs株式、エマージング債券円ヘッジなし、ハイイールド債券円ヘッジなし、国内株式となっている(\*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。

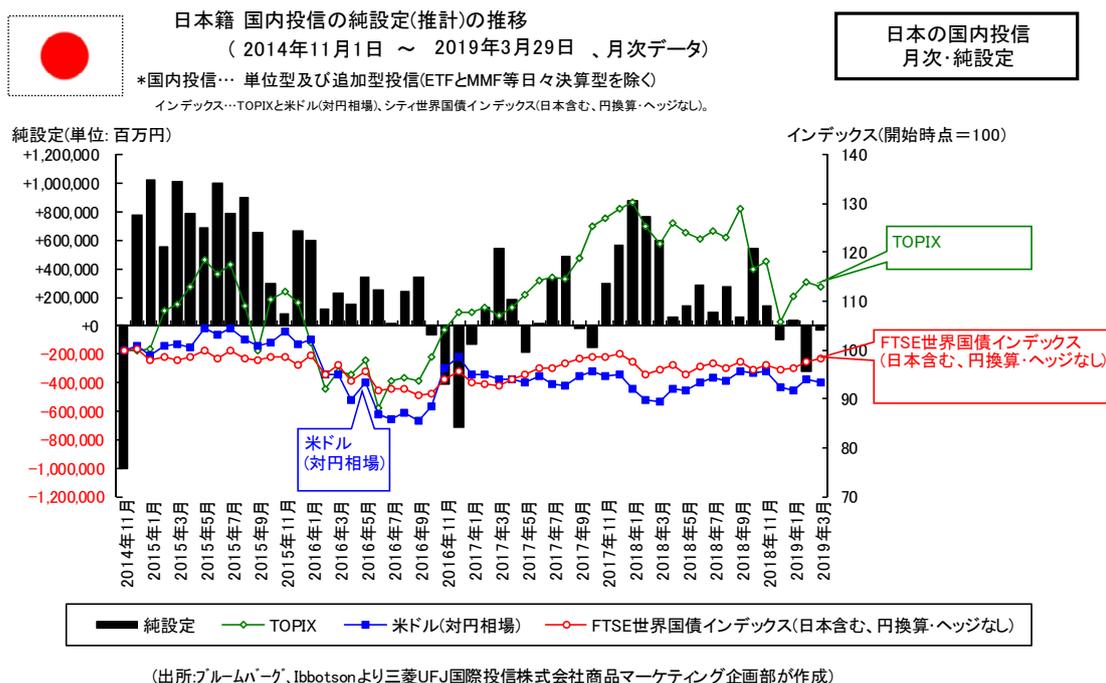


## 投信フロー最新動向～既存投資家は日本株、アセットアロケーション慎重型。日本株は今年最大の設定や日経平均インデックスファンドの流入で2カ月ぶり純流入!

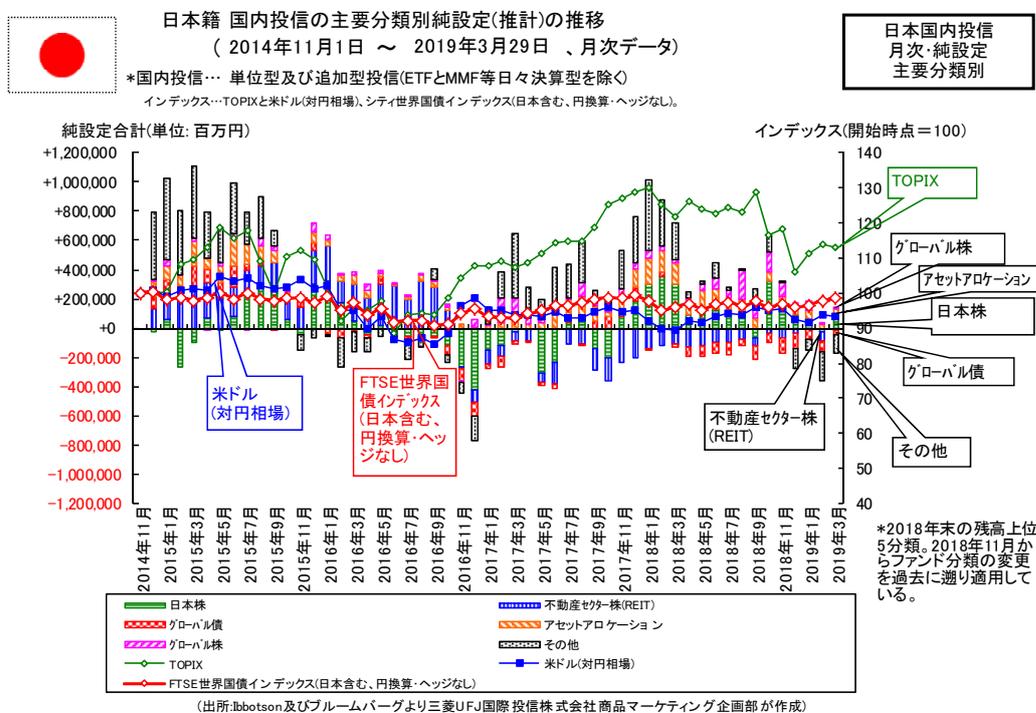
足元で株式市場への懸念が強まる中、2019年3月に、投信でどのような投資が行われてきたのだろうか。恒例の投信投資家動向を見る。「つみたてNISA」を含むNISAにおける投資で、その半数超を占める投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。

投信の最新フロー(純設定)を見るに際して、NISA投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分ける事とする。NISAの「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、NISAの「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※2参照)で代替する。

既存投資家(投信全体)の純設定は、最新2019年3月に-325億円と、2カ月連続の純流出も前月2月から大幅減少(←2月-3215億円～2年2カ月ぶりの大きさ←1月+374億円←2018年12月-959億円～14カ月ぶり純流出←11月+1428億円←10月+5403億円)。ただ、単位型だけで見れば3月は+914億円と2014年11月以降で最大の純流入となり、2か月連続の純流入。単位型では3月、2019年の当初設定額として最大となる750億円と言う日本株ファンドの新規設定が1日にあった他、前月2月の当初設定額が最大(約145億円)だった投信と同じシリーズによる設定が3月もあり150億円集めた。

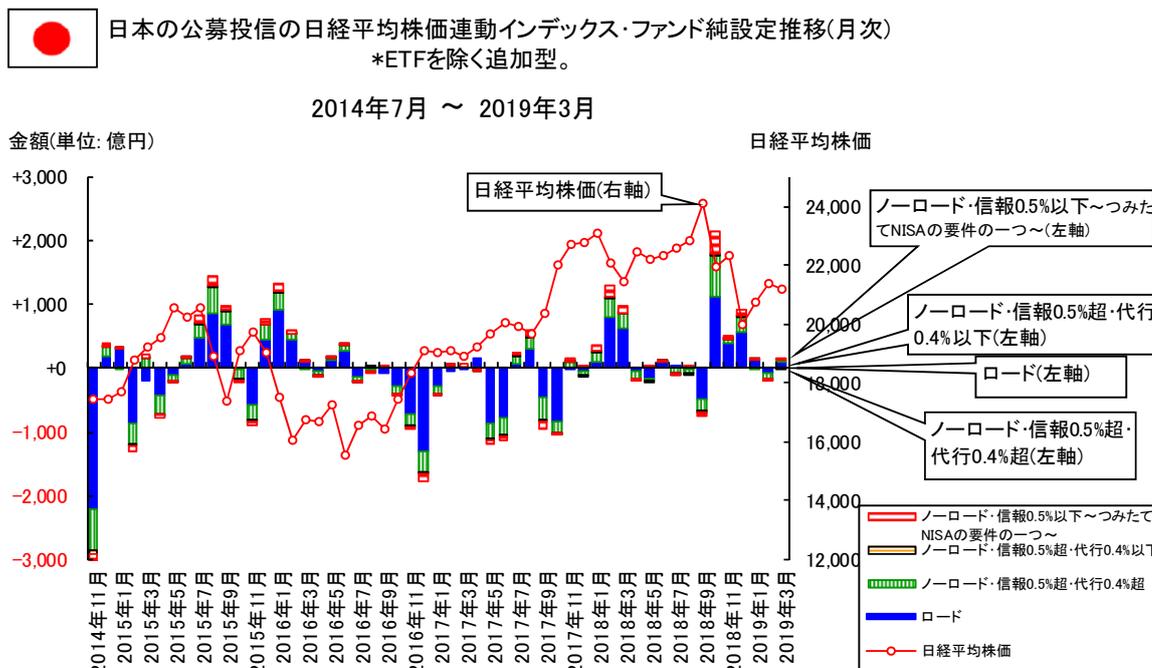


2カ月連続の純流出となった既存投資家(投信全体)の純設定を、投資対象別で見たものが下記グラフである(下記グラフは投資対象/主要分類~※1~に分けて見たもの)。3月に最も純設定の大きかったのは日本株(前月2月71位/全75分類中、以下同じ)、次いでアセットアロケーション慎重型(前月2月1位)、公益セクター株(前月2月5位)、日本債(前月2月7位)、アジア債(前月2月3位)だった。



※1: 主要分類…モーニングスター分類で2018年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。ヘルスケア株、公益セクター株、アジア債、日本債などは「その他」に含む。

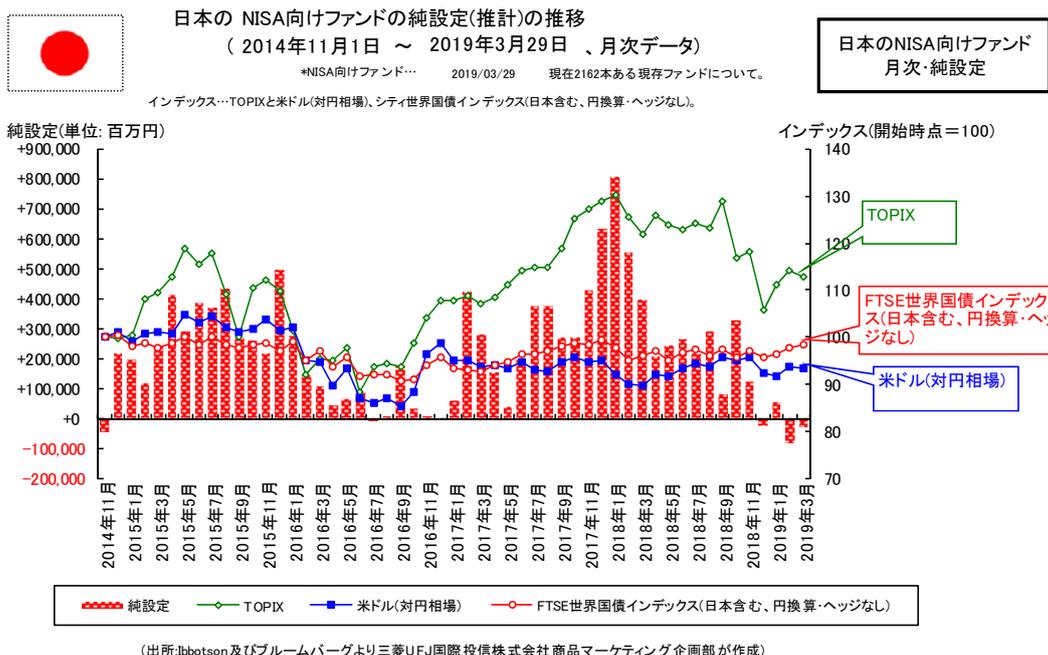
2019年3月の純設定が最大だった日本株は、前月2月は約200億円弱の純流出だったが、3月は+821億円と2カ月ぶり純流入となった。3月は、前述した通り、単位型の日本株ファンドで今年最大の新規設定(750億円)があった他、日経平均インデックス・ファンドは前月2月の-204億円の純流出から、3月は+133億円と小幅ながら2カ月ぶり純流入に転じたこと等がある。



(出所: プルームバーグ、Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

2番目に純設定の大きかったアセットアロケーション型は、3月に+500億円と、前月2月(+321億円)を上回り、安定的な純流入が続いている。うち、慎重型は+413億円と堅調な純流入が継続する一方、積極型(\*機動的な変更はしないが株式の組入比率が高い)は-24億円と小幅純流出に転じ、柔軟型(\*機動的に資産配分を変更)は-8億円と4カ月連続の純流出となっており、より安全志向が強まっている様にも見える。

**投信フロー最新動向～2019年3月にNISAでは引き続きグローバル株ファンドが人気! また中国債のグローバル債インデックス組み入れを好感してアジア債ファンドも人気!!～**  
 次に新規投資家(NISA向けファンド\*)の純設定を見る。次頁グラフの通り、最新2019年3月は-316億円とNISA投資が始まった2014年1月以降で最も大きな純流出だった前月2月(-851億円)から鈍化も、投信全体と同様2カ月連続の純流出(\*NISA向けファンド～後述※2参照)。



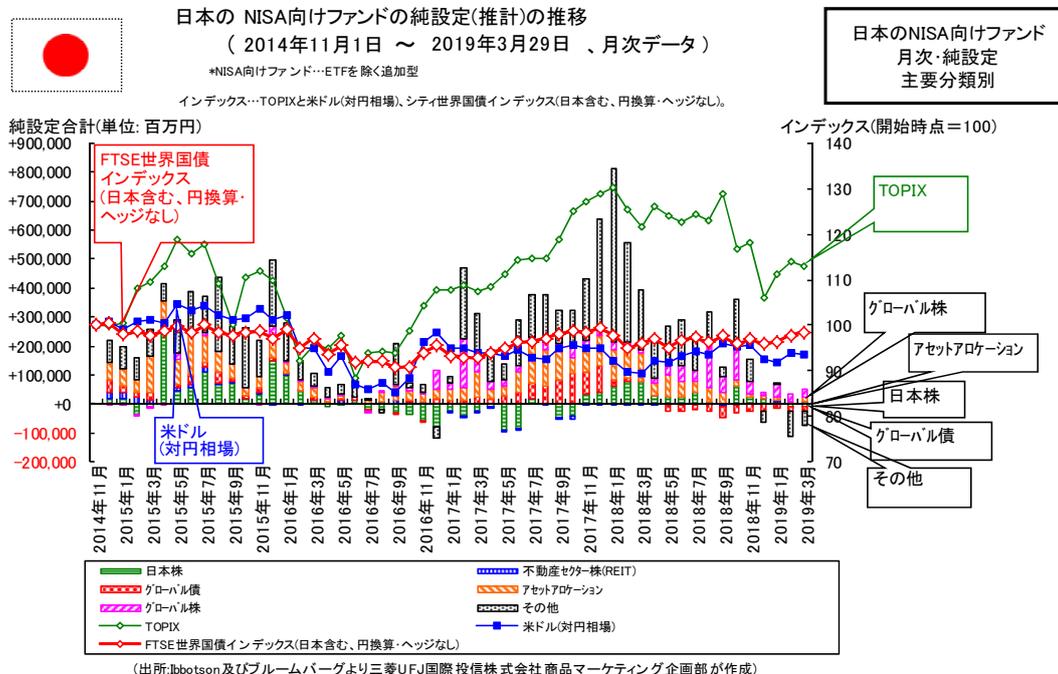
## ※2: NISA 向けファンド…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」とも言っている(URLは後述[参考ホームページ]③参照)。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単体型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(\*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2019年3月31日時点で2162本となった。

既存投資家(投信全体)と同様、2カ月連続の純流出となった新規投資家(NISA向けファンド)を投資対象(主要分類)別で見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での分類を用いると、最新2019年3月の純設定1位はアジア債(前月2月2位)、2位はグローバル大型株(前月2月1位)、3位はヘルスケア株(前月2月も3位)、4位はアセット・アロケーション慎重型(前月2月も4位)、5位は日本債(前月2月6位)と、1~5位はいずれも前月2月とほぼ同水準の純流入または純流入が加速していた(次頁グラフ参照~グローバル大型株は「グローバル株」に、ヘルスケア株、アジア債、日本債は「その他」に、アセットアロケーション慎重型は「アセットアロケーション型」に含む※1)。

グローバル大型株は、2019年の年初来(1~3月)で1位、2019年3月は2位だが、同3月3位ヘルスケア株は実質グローバル株に投資することが多いことから、グローバル株への流入は継続している。尚、1位のアジア債は、主に中国人民元建て債券等に投資するファンドだが、3月は+240億円と9カ月連続の純流入で加速傾向(←2月+190億円←1月+54億円←2018年12月+31億円←11月+31億円←10月+46億円←9月+3900万円)。

**2019年4月より、グローバル債券指数であるブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合インデックスに中国債が段階的に組み入れられる他、FTSE や JP モルガンの債券インデックスも検討中である事(2019年4月1日付ブルームバーグ～URLは後述[参考ホームページ]④参照)などが好感されている。一方で日本株は2019年3月に-92億円と前月2月(-84億円)とほぼ同水準の純流出額で2カ月連続の純流出となった。**



## 投信フロー最新動向～つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)はグローバル株～

最後に、つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)の純設定も見る(\*つみたてNISA適格投信なので、つみたてNISA以外で購入された分も含む、ETFを除く～つみたてNISA適格投信については後述[参考ホームページ]⑤参照)。

純設定は、最新2019年3月に+201億円と、前月2月(+172億円)を若干上回り、2017年2月以降26カ月連続の純流入となっている。ただ、純設定額は、直近1年間で3番目に小さく、2018年10月(+1064億円)から鈍化傾向だ。このつみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)を投資対象別で見ると、最新2019年3月の純設定1位はグローバル大型株(前月2月も1位)、2位はアセットアロケーション積極型(前月2月も2位)、3位は日本株(前月2月最下位)、4位は米国大型ブレンド株(前月2月3位)、5位はアセットアロケーション慎重型(前月2月5位)だった。

以上、NISAで何が買われたかについて既存投資家、新規投資家、つみたてNISA投資家の順に見てきた。世界景気の悪化懸念から世界の投資マネーがリスク回避に傾いてきたといわれる中、2019年3月につみたてNISAを含むNISAで主に買われた投信はグローバル株とアロケーション型であり、日本株のインデックス型やアジア債の人気も見られた。

もちろんこれは今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URLは後述[参考ホームページ]③参照)が多いと思われるNISA等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以上

[参考ホームページ]

- ①2019年3月31日付日本経済新聞朝刊「マネー、リスク回避に傾斜 株・商品頭打ち 世界景気を懸念」…  
「 <https://www.nikkei.com/article/DGXMZ043152120Q9A330C1EA2000/> 」
- ②2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」
- ③2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…  
「 <http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/> 」、2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…「 <https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/> 」。
- ④2019年4月1日付ブルームバーグ「The Man Who Bet on Chinese Debt」…「 <https://www.bloomberg.com/news/features/2019-04-01/chen-yang-s-big-bet-on-chinese-debt> 」。
- ⑤つみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「 [https://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_170424.pdf](https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf) 」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「 <https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html> 」。

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

### 本資料中で使用している指数について

- ・ TOPIX (東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・ FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・ 「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。